



見守経書
礼

15
1456
3



15
1456
3

八子歌文冊

三上藏書

早稻田大學圖書館
31.9.27
藏書

見同法字卷二目錄

南華

上小野三

一 漢書卷之九

二 春秋成文卷之三

三 漢書卷之三

四 漢書卷之四

五 漢書卷之五

六 漢書卷之六

七 漢書卷之七

八 漢書卷之八

九 漢書卷之九

十 漢書卷之十

一 七回九支文書 九〇
 一 八中記事七の入口 一〇四
 一 長巻書切大カ之書 一〇六
 一 味長海軍大服 一〇九
 一 油丹の書 一〇九
 一 園後五支の因入物 一一二
 一 小倉の書 一一四
 一 川島の本 一一六
 一 今井道及の書 一一八
 一 津巻書 一二〇
 一 赤尾平書 一二二

一 〇月支文書 一二二
 一 送書 一二二
 一 中村書 一二二

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)



歌人の道徳もともあつて其の心はまろく
その心はまろく其の道徳もともあつて
其の心はまろく其の道徳もともあつて
其の心はまろく其の道徳もともあつて
其の心はまろく其の道徳もともあつて
其の心はまろく其の道徳もともあつて
其の心はまろく其の道徳もともあつて
其の心はまろく其の道徳もともあつて
其の心はまろく其の道徳もともあつて
其の心はまろく其の道徳もともあつて

凡人教多の善悪中其の道徳もともあつて
凡人教多の善悪中其の道徳もともあつて
凡人教多の善悪中其の道徳もともあつて
凡人教多の善悪中其の道徳もともあつて
凡人教多の善悪中其の道徳もともあつて
凡人教多の善悪中其の道徳もともあつて
凡人教多の善悪中其の道徳もともあつて
凡人教多の善悪中其の道徳もともあつて
凡人教多の善悪中其の道徳もともあつて
凡人教多の善悪中其の道徳もともあつて

一人の心を以て母の情を以てはさるる母の心
傍に中へ置きて其の心を以て母の心
察し伯父の情を以て母の心
この心は門を以て母の心
撰るとは人を以て母の心
看るに母の心を以て母の心
この心は母の心を以て母の心
この心は母の心を以て母の心
この心は母の心を以て母の心
この心は母の心を以て母の心

此の心は母の心を以て母の心
此の心は母の心を以て母の心
此の心は母の心を以て母の心
此の心は母の心を以て母の心
此の心は母の心を以て母の心
此の心は母の心を以て母の心
此の心は母の心を以て母の心
此の心は母の心を以て母の心
此の心は母の心を以て母の心
此の心は母の心を以て母の心

一 市別の多又別居女は... 子に... 子成... 子に... 例の... 危人... 道... 上... 此... 此...

易り... 今... 此... 此... 又... 此... 此...

一 幸甚因縁の善なる一此の如く一好切かて孫
の母に申すに成し其母の如く一或は地一といひ因
縁の力強く心も割りて一或は地一南にあり
之を海と云ふ一古語ありて小治一て大女羅
餘任る一海と云ふ一其地多し一其地多し一其地多し
細成る一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し
沖法を善く一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し
沖法を善く一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し
たつ善く一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し
けり一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し
あつた一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し

細成る一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し
しる一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し
史の善く一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し
親一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し
申す一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し
物一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し
一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し
あつた一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し
善く一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し
あつた一其地多し一其地多し一其地多し一其地多し

おそれおそれいひては死の所を殺しつゝは後報の者
御も是の御事なり

一
心は空に置てはつゝは御事なり
忠告も御事なり
若し御事なり
力者なり
義自ら
其れなり
のなり
心なり
若し御事なり
御事なり

如く成てはつゝは御事なり
心は空に置てはつゝは御事なり
忠告も御事なり
若し御事なり
力者なり
義自ら
其れなり
のなり
心なり
若し御事なり
御事なり

あつたにちちの湖に 鶴十子 *shōjū* *shōjū* *shōjū*
をよもすかたを *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
のまのて *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
るに *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
な *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
て *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
は *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
は *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
風 *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
浅 *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
血 *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*

行 *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
わ *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
風 *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
わ *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
ま *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
斗 *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
物 *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
て *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
け *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
せ *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*
わ *shōjū* *shōjū* *shōjū* *shōjū*

一腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く
くははは其腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く
支那のぬりし着るものも額をたうはく此其く
わははは其腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く
よははは其腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く
くははは其腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く
巻よははは其腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く
口持て身よははは其腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く
一西谷は相撲の絶くぬりし着るものも額をたうはく此其く
絶くぬりし着るものも額をたうはく此其く
よははは其腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く

の国をぬりし着るものも額をたうはく此其く
物よははは其腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く
相撲のぬりし着るものも額をたうはく此其く
わははは其腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く
よははは其腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く
くははは其腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く
巻よははは其腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く
口持て身よははは其腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く
一西谷は相撲の絶くぬりし着るものも額をたうはく此其く
絶くぬりし着るものも額をたうはく此其く
よははは其腸皮のぬりし着るものも額をたうはく此其く

好意の... 母... 雁... 頼... ね... 起... 仕... 御... 彼... 順...

又... 流... 汗... 左... 下... 出... 但... 送... 不...

思ふに此の如くは、
 形迹なきに、
 多海は、
 され、
 能下、
 方、
 つけ、
 あく、

思ふに、
 の、
 遺、
 一、
 七、
 控、
 一、
 流、
 流、
 思、

息をけりたり

一 小倉及高野等の高野は比羅路に在りて其の由緒を
浪人並に老僧の言に依りて其の言を以て其の
言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
昔高野と云ふ所は高野に在りて其の言を以て其の
内高野と云ふ所は高野に在りて其の言を以て其の
言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て

すは高野の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て
其の言を以て其の言を以て其の言を以て其の言を以て

なほ河津をねそく海軍にわたりあましそく守人公事も極
るる海軍の戦ひは日と極むるもその上は信一徳重の
まゝとくはそれと極むるもその上は信一徳重の
此の公事すけ及びきうはと極むるもその上は信一徳重の
思ひつゝとくはそれと極むるもその上は信一徳重の
此の公事すけ及びきうはと極むるもその上は信一徳重の
思ひつゝとくはそれと極むるもその上は信一徳重の
此の公事すけ及びきうはと極むるもその上は信一徳重の
思ひつゝとくはそれと極むるもその上は信一徳重の
此の公事すけ及びきうはと極むるもその上は信一徳重の
思ひつゝとくはそれと極むるもその上は信一徳重の

江戸の海軍の戦ひは日と極むるもその上は信一徳重の
まゝとくはそれと極むるもその上は信一徳重の
此の公事すけ及びきうはと極むるもその上は信一徳重の
思ひつゝとくはそれと極むるもその上は信一徳重の
此の公事すけ及びきうはと極むるもその上は信一徳重の
思ひつゝとくはそれと極むるもその上は信一徳重の
此の公事すけ及びきうはと極むるもその上は信一徳重の
思ひつゝとくはそれと極むるもその上は信一徳重の
此の公事すけ及びきうはと極むるもその上は信一徳重の
思ひつゝとくはそれと極むるもその上は信一徳重の
此の公事すけ及びきうはと極むるもその上は信一徳重の
思ひつゝとくはそれと極むるもその上は信一徳重の
此の公事すけ及びきうはと極むるもその上は信一徳重の
思ひつゝとくはそれと極むるもその上は信一徳重の
此の公事すけ及びきうはと極むるもその上は信一徳重の
思ひつゝとくはそれと極むるもその上は信一徳重の

親親より市一版そまふ食一其も何年沖事元
よもぬて沖事おころるに何んか其の由を信と致して
若しそま速に成るも有るしそつ子方し明の由信を
よ勤て所を以て信致しそつ子方の由を有る方をかて
居るよりより沖能射るるに其の由能えん大野舟集り
百射とて一版し一版も其まのそすしそつ子方とて射る
肉は強あつてそるもそなごるそつ子方に能えんの内を
るそつ子方とてそすあつてそつ子方とてそつ子方とて
よもぬて沖事おころるに何んか其の由を信と致して
南より種をそつ子方とてそつ子方の由を信と致して
物より種をそつ子方とてそつ子方の由を信と致して

若しそま速に成るも有るしそつ子方し明の由信を
よ勤て所を以て信致しそつ子方の由を有る方をかて
居るよりより沖能射るるに其の由能えん大野舟集り
百射とて一版し一版も其まのそすしそつ子方とて射る
肉は強あつてそるもそなごるそつ子方に能えんの内を
るそつ子方とてそすあつてそつ子方とてそつ子方とて
よもぬて沖事おころるに何んか其の由を信と致して
南より種をそつ子方とてそつ子方の由を信と致して
物より種をそつ子方とてそつ子方の由を信と致して

皆其時よりして一書傳りて是れ傳のす知れり。高次
と信村を對面するを指す方石らありぬるに白川が國
邊より方石河加路ありぬるに後北條の山崎と加藤と
との加路より此分後又方石より女多抱別と北條より
此方より多く女より持さしは陸より加路又、山崎若手若
下馬馬止山越7p。と女ならるは山崎と若手若手と
とせ然に吾ら女より多しに知れり。山崎若手若手と
女より切者女より多しに多し抱く。山崎若手若手
補ひありぬる。

一 津吉七尾のいふに、方石前を北條の家は、一、後
北條河原に、とふ前に、後山崎女より多し、女より多し

照海ふと成り、其の長き海と年々の中を、中を
役前女より多し。容白の元趣。一、其事成りぬるに
檢りたる大國信長も及、其年小川元と成ぬるは作
しありぬるに。一、其事成りぬるに。一、其事成りぬるに
成大名の聲小成るに、同言をも中々家の中
川の土梅のまじり成小に。一、わが家ありぬるに
石よりいはれり。一、其事成りぬるに。一、其事成りぬるに
たはぬる大名の聲小成るに、其行用言、一、其事成りぬるに
事、行用言、一、其事成りぬるに。一、其事成りぬるに
勅、其のまじりぬるに。一、其事成りぬるに。一、其事成りぬるに
と、其事成りぬるに。一、其事成りぬるに。一、其事成りぬるに
と、其事成りぬるに。一、其事成りぬるに。一、其事成りぬるに

川運ちの海軍運きしを、後の方の御説に依
 成し、お指しに依りて運人あし人あしといふべき
 運の長は、大岡との、しき、の、小防、の、は、津、ま、て
 運、ひ、れ、あ、一、あ、の、物、小、を、ら、る、と、後、下、野、志
 羽根、大、岡、の、の、所、下、の、川、に、は、あ、り、を、り、あ、一
 り、ま、た、も、た、る、に、は、御、説、の、は、く、と、是、非、大、作、説、ひ
 ち、て、く、に、御、説、一、と、成、ま、ら、る、に、何、れ、也、は、あ、り、及
 作、に、あ、り、内、に、の、物、説、し、ら、一、に、右、長、海、の、説、
 あ、一、と、成、ま、ら、る、に、は、御、説、と、ら、る、と、く、と、あ、り
 とい、く、の、御、説、に、あ、り、御、説、と、も、あ、り、と、ら、り、の
 あり、ま、た、も、た、る、後、の、御、説、と、は、御、説、と、も、あ、り、の、説、

三

御撰抄に、小伝く、然るも、いふ、小、伝、の、せ、り、と
 んと、作、止、り、成、ま、ら、り、と、い、ふ、の、説、に、あ、り、と、い、ふ、や
 然、り、と、い、ふ、身、に、い、は、し、御、説、に、あ、り、と、い、ふ、と、止、り、
 神、谷、其、の、神、谷、に、は、所、又、其、の、説、に、あ、り、と、い、ふ、と、
 別、説、に、あ、り、と、い、ふ、神、谷、に、は、其、の、説、に、あ、り、と、い、ふ、と、
 為、り、と、い、ふ、長、壽、子、大、岡、の、説、に、あ、り、と、い、ふ、と、い、ふ、
 達、少、く、分、知、と、い、ふ、大、岡、御、説、に、あ、り、と、い、ふ、と、い、ふ、
 元、と、い、ふ、一、と、い、ふ、政、邦、と、い、ふ、代、小、と、い、ふ、と、い、ふ、
 了、御、説、に、あ、り、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、
 入、り

一 竹尾平之重文初の名多き言より、竹尾平之重文

中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
一 中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して

一 中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して
中興と歎くも中興は神代に於て既にありし世に對して

